

観点別学習状況の評価のための総括の場面

- (1) 単元（題材）における観点ごとの評価の総括
- (2) 学期末における観点ごとの評価の総括
- (3) 学年末における評定への総括

(1) 単元（題材）における観点ごとの評価の総括

まず、単元（題材）において、具体的な学習活動に即して設定したいくつかの「学習活動における具体の評価規準」ごとに評価を行い、観点ごとにそれらの評価結果を総括する。

総括の方法としては、評価結果の状況を数値によって表わせるようにし、この数値から総括を行う。Aを3、Bを2、Cを1とし、数値の平均値が2.5以上をA、1.5以上2.5未満をB、1.5未満をCとする。

- 例①：A、A、B → $(3+3+2) \div 3 = 2.7$ → A
- 例②：A、B、C → $(3+2+1) \div 3 = 2$ → B
- 例③：B、B、C → $(2+2+1) \div 3 = 1.66\dots$ → B
- 例④：B、C、C → $(2+1+1) \div 3 = 1.33\dots$ → C
- 例⑤：A、A、B、B → $(3+3+2+2) \div 4 = 2.5$ → A
- 例⑥：A、B、C、C → $(3+2+1+1) \div 1.8$ → B

(2) 学期末における観点ごとの評価の総括

学期末における総括については、(1)で統括した単元（題材）における観点ごとの評価結果をもとに行う場合と、単元（題材）ごとの評価結果からではなく単元（題材）の中の「学習活動における具体の評価規準」に照らして行った評価結果から直接行う場合が考えられる。

上記のいずれの場合とも、学期末における観点別学習状況の評価（A、B、C）を導く総括の方法としては、上記(1)と同様の考えに立つ。

(3) 学年末における評定への総括

学年末における評定への総括については、観点別学習状況を基本として、各教科の学習状況を総括的に評価する。第3学年以上では、3、2、1の3段階で評価する。Aを3、Bを2、Cを1とし、数値の平均値が2.5以上を3、1.5以上2.5未満を2、1.5未満を1とする。

全教科（3観点）

- 例①：A、A、B → $(3+3+2) \div 3 = 2.66\dots$ → 3
- 例②：A、B、C → $(3+2+1) \div 3 = 2$ → 2
- 例③：B、B、C → $(2+2+1) \div 3 = 1.66\dots$ → 2
- 例④：B、C、C → $(2+1+1) \div 3 = 1.33\dots$ → 1

上記(1)から(3)の総括において、学習の最終段階の評価を重視する考え方については、それによって途中段階の評価がおろそかにならないように配慮する。